

夏秋系スプレーギク‘紀州サマーリンド’の作型延長 ～6月開花作型の切り花品質～

1. はじめに

当試験場では、2024年にスプレーギク新品種‘紀州サマーリンド’を育成し、産地への普及を進めています。

本県のスプレーギク生産は、7～9月に出荷する夏秋系品種と10～6月に出荷する秋系品種を組み合わせた周年出荷体系を構築しています。しかし、近年、夏季の高温が早期化していることから、秋系品種から夏秋系品種への切り替え時期の前倒しが検討されています。そこで、伸長性に優れた夏秋系品種‘紀州サマーリンド’を用いて6月開花作型（6月区）と7月開花作型（7月区）の切り花品質を検討しました。

2. 材料および方法

6月区は2025年3月12日に挿し芽を、3月28日に発根苗の定植を行い、7月区は2025年4月10日に挿し芽を、4月24日に定植を行いました。1プランター当たり6株ずつ定植し、各区18株供試しました。基肥と追肥は、1.2gN/プランターずつ施用し、追肥は定植後35日目に施用しました。日長管理は、挿し芽から深夜5時間電照（21:30～2:30）を行い、定植後41日目に消灯し、以降13時間日長管理（5:30～18:30）としました。3月12日～5月30日まで15℃設定の加温を行い、以後は無加温で管理しました。調査は、開花した株から順次行いました。

3. 結果

表1 異なる開花作型が‘紀州サマーリンド’の消灯時生育および収穫時切り花品質に及ぼす影響

試験区	消灯時生育		収穫時切り花品質							
	草丈 (cm)	節数 (節)	開花日	切り花長 (cm)	節数 (節)	切り花重 (g)	調製重 ^z (g)	茎径 ^y (mm)	輪数 ^x (輪)	花首長 (cm)
6月区	54.2	28.1	6/18	123.6	49.2	71.4	41.0	5.7	14.4	3.4
7月区	69.9	30.9	7/29	121.8	51.1	66.5	43.2	5.5	10.4	3.5
有意性 ^w	**	**		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	**	n.s.

^z 切り花を80cmに調製し、基部から20cmまでの葉を除去したときの重量。

^y 頂花から40cm下位の箇所を計測。

^x 舌状花の着色が認められた蕾の数。

^w t検定により**は1%水準で有意差があり、n.s.は有意差が無いことを示す。

消灯時の生育について、6月区は草丈が54.2cm、節数が28.1節となり、7月区は草丈が69.9cm、節数が30.9節となりました。6月区は7月区より15.7cm低く、節数は2.8節少なくなりました（表1）。

切り花品質に関して、6月区の輪数は7月区より4輪多くなりましたが、その他の項目には差はありませんでした（表1、図1）。



図1 6月区と7月区における切り花の外観

4. おわりに

本試験の結果、‘紀州サマーリンド’の6月開花作型では、消灯時の生育に差が認められるものの、7月開花作型と同等な切り花を生産できる可能性が見出されました。

（栽培部 水落俊良）